

拝啓、 ふるさと様。

俳優 栗津 號

20



ふるさと。秋田。男鹿半島。ふるさとには感謝だよね。それにこの頃しきりに生まれ在所のことを思う。暮に、ガッツ石松氏と仕事いっしょだったんだけど、いきなり気が合っちゃってね。不思議な気がしたくらい。プロデューサーがいうんだよ。「日本人、純粋種の二人だね」って。山田洋次監督にいわれたものなァ。「今どき貴重な顔と

体型だよ。日本にも大正から昭和初期までは君みたいな男が多かったんだが。今は少なくなったねえ。特に、役者に少ない」。ガッツ氏はS・スピルバーグの映画に出たし、俺もワーナーブラザースの『Women of Valor』（一九八六）フィリピン・ロケ。英豪合作『Heroes II』（一九九一）オーストラリア・ロケ。おのおの、約六百人の中から「OH！この人。イメージぴったりです。貧しい農村から出てきた鬼軍曹・コダマ役。やって下さい」。日本代表俳優に引っこめられた。選考条件に「体格はがっしり、ずんぐり。四角っぽい。普段は人が好きそうにニコニコ笑っているのだが、『天皇』の命令。この一言でガラリと変わる。テリブル・リトルマンである」とあった。なるほど、やっぱり俺かな。異国の地で青い目の人たちと撮影しながら、はるかふるさとを想いましたよ。

ああ、俺の先祖は代々、八郎潟の雑

魚を食べ、寒風山の麓のワラビやフキをちぎっては食らい、男鹿の海のハタハタ、海藻、サザエで暮らし育ったこの体なんだよなァ。ふるさとが泌みているんだ。母方の里のことを思えば平鹿盆地・浅舞の米、りんご、きのこ、野菜。祖母は県北・阿仁合が生まれ在所。「おばあちゃんのところの万能菜だよ」となめた、あの熊胆（くまのい）の苦かったこと。ああ、栗津號の肉体には秋田が詰まっている。ガッツ氏？あのチャンピオンには栃木県が詰まっているよ。ガキ大将のまんま……。心やさしい男気にあふれたヒト。大好き！他人に思えない。「俳優」という被写体となってふるさと・秋田のことをまづは肉体で思うんだ。心の中にも秋田はいるねえ。嘘つけない。不器っちょ。お世辞が出てこない。その場で怒れない。一日たってから憤ってきたりする。ほめられれば何でもやっちゃう。ブタも木に登る。もへこしよう（おだてにのる）こと半端じゃない。父親がそうだったなァ。秋田の人たち、おっかねツラしてあんがい気持ちはやさしいんだよね。「もっと恐い人かと思ってましたよ」「何いってる。ダマコモチ食わしてやるから遊びに來い！」「あ、いきます。ダマコモチって、何ですか？」「キリタンポの原産だ。こっちが旨えくれえだ」。鯨の白い脂身（塩くじら）をたんざくに切って茄子入れて味噌で煮る汁もうまいよなァ。

あ、そうでした。もうひとつ大事なことをふるさと様に報告しなければ……。



栗津號（あわづ・こう）昭和20年男鹿市生。本名祐教。生家は浄土真宗・円徳寺。船越中学校、県立秋田高校から39年東洋大学法学部へ進む。中学3年の時、地元中学生三千人の中から選ばれ、東映教育映画「なまはげ」に出演。「教師になって寺を継ぐ」つもりが、「住職は老後でいい。男なら中央で活躍してみろ」という父のことばに、大学4年の時に俳優を志し日本アカデミーに入る。43年俳優小劇場に入所、2年後に研究生。46年同劇団は解散するが、この頃神代辰巳監督と出会う。昭和42年度「キネマ旬報」男優賞にノミネートされ、以後「四畳半襖の裏張り」などロマンポルノで活躍するほか、ATG「竜馬暗殺」、松竹「遙かなる山の呼び声」などに出演。テレビではNHK「元禄太平記」、「黄金の日々」、NTV「大都会」、テレビ朝日「豆腐屋直次郎・裏の顔」など多数にレギュラー出演。同61年「ワーナーブラザーズ」WOMEN OF VALORや「昨年の英豪合作映画「HEROES II」など外国映画には日本代表俳優に選ばれ出演。「生きる辛さに泣きはしない、生きる喜びに涙する」を信条に活躍中。千葉県浦安市美浜二―一五〇二住。